

つくば科学フェスティバル2003を終えて

10月11日(土)と12日(日)の2日間、つくばカピオにおいて、つくば科学フェスティバル2003が開催されました。このつくば科学フェスティバルは、「青少年達に科学技術に対する夢や希望、必要性等の関心を与える」ことを目的とし、つくば市の主催(筑波研究学園都市研究機関等連絡協議会の共催)により毎年行われています。今年の参加団体数は、市内の小・中・高校、専門学校、大学、試験研究機関、企業の研究所など54機関で、当日会場での協力者数は約1,000人にも及びます。農林研究団地からは中央農業総合研究センター、畜産草地研究所、農業生物資源研究所、農業工学研究所、森林総合研究所と当所の6機関が参加しました。

当所では動物を観察し触れていただくように、次の企画を計画しました。

- 1) 動物のお医者さん体験! ウサギを診察してみよう
- 2) 「実験動物ってなぜ必要なんだろう」 人の健康と実験動物
- 3) ダニを知っていますか?

ウサギの診察コーナーは、小さい子供から大人まで幅広い人気があり終日賑わっていました。抱き方を教わりこわごわウサギを抱く幼児や、今年も楽しみにして来たという小学生、また、「大人もいいですか?」と聴診する保護者の方など、多くの方が獣医を体験していました。

実験動物のコーナーでは実験動物として一番多く使われているマウスを紹介しました。実験動物の必要性や、研究の目的によって開発される系統、飼育方法などをパネルで説明しました。子供達は展示されている白や黒、茶色など5種類のマウスを、初めは驚きながらも、いとおしそうに手のひらに乗せて「かわいい」を連発していました。

ダニのコーナーでは、展示したダニの体長4ミリはあろうという大きさに、子供達はびっくり。吸血すると1センチくらいになると聞いてまたびっくりしていました。そして足の数はいくつ? 触覚はないの? などと熱心に観察していました。

ブースの内部には、BSE、口蹄疫、炭疽菌などのパネルを展示し、所長・部長をはじめ研究者が説明にあたりました。クイズとして各コーナーから1題ずつ出題したので、子供達がクイズ用紙を片手にパネル内容の解説を求めますが、子供達にも分かるように動物の病気や研究成果を説明するのはなかなか大変だったようです。

あっという間の2日間でしたが、多くの所員の協力を得て無事に終了することができました。動衛研のブースを訪れた子供達は、動物も私たちと同じ生命を持っており、同じように尊重されなければいけないのだということ、ウサギやマウスのぬくもりを通して感じてくれたことと思います。

(広報委員会事務局 情報資料課)



「どう? 心音きこえる?」